参考資料１－イ

資料Ａ

第13回
平取ダム地域文化保全対策検討会

＜平成23年度　調査成果概況＞

◆１精神文化保全対策に関する調査

2012（H24）-07-27

アイヌ文化環境保全調査室

■報告イ
◆１　精神文化保全対策に関する調査

【概要・要点の説明】

１）現地調査

- 保全対策に向けた現地調査整理表⇒手元資料A-１
- 「記録による保全」⇒手元資料A-２
- 「記憶（心）や行為による保全」 ⇒手元資料A-３、４
- 「祈りの場による保全」 ⇒手元資料A-５

２）意向調査

- 平取ダム地域文化に関する現地調査での意向確認
  ⇒手元資料A-６
- 地域関係者の意向確認⇒手元資料A-７

現地調査　保全対策に向けた現地調査整理表

資料Ａ－１

A　保全対策に向けた現地調査

ア）記録による保全

①H23 年度行った精神文化保全対策に必要な現地調査と事例調査についての一覧

今年度、精神文化保全対策に必要な現地調査として行った内容です。

Ⅰ　調査室が主体となって行った儀礼

対象名	日付	祝詞	所作	祭具	料理	舞踊	行為	記憶	場所	報告書	特色（本文のページ番号）	開催地
紫雲古津試験畑でのカムイノミ(春)	5月18日	●	●	●	●	-	●	●	-	●	調査室で試験畑として作物栽培を行っている場所でのカムイノミで安全と豊作を祈願して行う儀礼（P８～P10）	紫雲古津試験畑敷地内
豊穂試験畑でのカムイノミ(春)	5月25日	●	●	●	●	-	●	●	●	●	各神様へ収穫の感謝の気持ちを込めた儀礼（P11、P12）	豊穂試験畑付近の沢沿い
紫雲古津試験畑でのカムイノミ(秋)	10月20日	●	●	●	●	-	●	●	-	●	調査室で試験畑として作物栽培を行っている場所でのカムイノミで安全と豊作を祈願して行う儀礼（P13、P14）	紫雲古津試験畑敷地内
豊穂試験畑でのカムイノミ(春)	10月24日	●	●	●	●	-	●	●	●	●	各神様へ収穫の感謝の気持ちを込めた儀礼（P15、P16）	豊穂試験畑付近の沢沿い
チェプノミ	11月8日	●	●	●	●	-	●	●	●	●	地域の協力者からの聞き取りと儀礼などの指導を参考に取り組みました。（P17～P19）	沙流川支流アベツ川

Ⅱ　調査室が記録として参加した儀礼

対象名	日付	祝詞	所作	祭具	料理	舞踊	行為	記憶	場所	報告書	特　色（本文のページ番号）	開催地
チセノミ	5月2日	●	●	●	-	-	-	-	-	-	イオルが主催した儀式を当日準備作業から音声と映像を記録調査しました。	イオル再生事業１号チセ
チセコッエイノンノイタク	6月24日	●	●	●	-	-	-	-	-	●	イオルが主催した儀式を当日準備作業から音声と映像を記録調査しました。（P２～P７）	イオル再生事業４号チセ
ウトムヌカラ	8月21日	●	●	●	●	●	●	●	-	●	北海道アイヌ協会平取支部青年部と協同で儀式の準備から記録までを調査しました。（P27、P28）	博物館ポロチセ
アシリチェプノミ	9月27日	●	●	●	●	-	-	-	-	-	イオルが主催した儀式を当日準備作業から音声と映像を記録調査しました。	オサツ沢沿い
宿主別カムイノミ	11月19日	●	●	●	●	-	-	-	-	●	先祖が行っていたカムイノミを子孫が伝承していく為の儀礼（P20～P23）	記憶の印説明看板付近

Ⅲ　[illegible]

対象名	日付	祝詞	所作	祭具	料理	舞踊	行為	記憶	場所	報告書	特　色	開催地
北大イチャルパ	8月5日	-	●	-	-	●	-	-	-	●	北海道大学医学部に研究の対象として保管されている 969 体のアイヌ人骨に対して、哀心から鎮魂の意を表し、イチャルパを行う。	北海道大学医学部敷地内「アイヌ納骨堂」
千歳アシリチェプノミ	9月5日	-	●	●	●	●	-	-	-	●	各所作についての説明を随時行うなど初心者でも解りやすく丁寧な対応を取っていた参考になる儀礼	千歳
札幌アシリチェプノミ	9月11日	-	●	●	-	●	-	-	-	●	儀式を行う場所でのイナウを削る所からの記録調査	札幌
白老チェプノミ	9月18日	-	●	-	-	●	-	-	-	●	地域のお祭りの中の一つのイベントとして行われた儀式	白老
札大イチャルパ	10月4日	-	●	-	-	●	-	-	-	●	毎年、各地域の関係者が集まり行われる儀式	札幌医科大学敷地内

[illegible] を表でまとめました。次年度以降も引き続き事例調査を行い、各地域での儀式のあり方を探り平取町で行う儀式の参考に出来るよう調査内容を深めていきたいと思います。

「記録による保全」

資料Ａ－２

イ）記憶（心）や祈りの行為による保全

①安全祈願と豊作祈願のカムイノミ（紫雲古津試験畑／豊糠試験畑）

●紫雲古津試験畑カムイノミ(春) 5月 18 日

準備作業

準備した供物等

①お酒(ワンカップ)

②シアマム（米）

③シッポ（塩）

	所作の内容	画像
1	トマの代わりにブルーシートを敷く	
2	アペフチ（火の神さま）の準備	
3	チェホ゜カケア イナウを立てる ※イナウは鍋沢さんが準備しました。	

※儀礼配置図につきましては９ページを参照してください。

儀礼開始

	儀礼の流れ	画像およびイメージ図
1	着座	
2	イヨマレ（酌をする・酒を注ぐ） ※ワンカップからトゥキへお酒を注いだ後、鍋沢さんの左側手前（本来の儀式で供物等が置かれている場所）にお酒を置きました。	

	儀礼の流れ	
3	アペフチ（火の神）へのチッカ（(雫を）したたらす） トゥキに入ったお酒をイクパスイ（棒酒箸）の先につけ、アペフチへ３回チッカする。	
4	イナウへチッカ 鍋澤さんの場合、イナウの先端部分に２回、イナウの二段目の花にも１回チッカしていました。	
5	供物のチャルパ（先祖へ送るために散らす） 米→塩の順番でチャルパします。	
6	カムイノミ１ ９ページを参照してください。	
7	チッカ アペフチへ３回チッカ	
8	イナウの神様へ３回チッカ	
9	自分のトゥレンペ（悪き神）にチッカし、トゥキを両手で持ったまま上下させ、お酒をいただきます。	

「記憶（心）や行為による保全」

資料Ａ－３

★　今日的な社会環境下において、アイヌの精神文化継承のあり方をさぐり、一定の方向性を見いだす。

◆　現地での儀式の準備と所作について記録調査

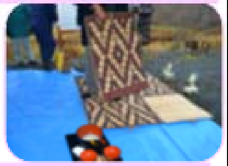
天候が不順な為に急遽テント を設営しました。

テント設営後の様子

木幡さんの親族による儀式の準備
・チェホロカケプイナウ（さかさ削りの木幣）を立てる

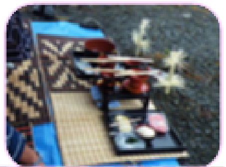
木幡さんの親族による儀式の準備
・木幡さん作製のトマ（ござ）を敷く

木幡さんの親族による儀式の準備
・木幡さん作製のイナウソ（模様つきのござ）を敷く



祭具と供物を準備する

祭壇となる場所の準備
・トノトの入ったエトゥヌプ（片口）の準備
・トゥキの準備
・供物の準備



木幡さんの親族が着座する
・チェホロカケプイナウにシラリ（酒粕）を乗せ、始まりのオンカミをする*1

木幡さんの親族によるイヨマレ（酒を注ぐ）
エトゥヌプは左側から２回に分けてトゥキに注ぐ

木幡さんによるチノミシリへのカムイノミ

＊祝詞は関連資料を参照

各親族はそれぞれカムイノミを行い、最後にイトゥレンカムイ（憑き神）にチッカ（(雫を）したたらす）してトノトを口にし、後ろに座る参加者へオンカミをしながら手渡す

トゥキを渡された参加者は、オンカミをしながら受け取り、イトゥレンカムイにチッカしてトノトを口にし、次の参加者へオンカミをしてトゥキを手渡す

一個人で行っていたカムイノミが調査していく段階で親族も参加できる儀式の移り変わりを、継承されていくアイヌの精神文化保全対策につなげる

参加者全員にトゥキが周り終ったら最初のトゥキの持ち主に返す

トゥキが戻ってきたらもう一度トノトを注ぎ、アペフチ（火の神様）へ供物を上げアペフチ、イナウ、チノミシリ、イトゥレンカムイの順で３回ずつチッカを行いのトゥキをオッチケ（膳）に戻し、最後にオンカミアンナ*2をして儀式を終了する

＊１　オンカミ（男性の礼拝）
両手をお腹の前あたりで掌を上に向けそのままゆっくり３回上下させる行為

＊２　オンカミアンナ（礼拝しましょう）
お腹の前で両手を合わせゆっくり左右に少し大きく３回摺らし、その後掌を上に向けそのままゆっくり２回上下させ３回目に胸からお腹にかけてそっと下ろす

参加した親族の中では、「おかげさまで貴重な体験ができた」という意見もあり、今後も同じ場所で毎年カムイノミを続けていきたいとの木幡さんの意向なども参考に、次年度からの保全対策についての課題とします

「記憶（心）や行為による保全」

資料Ａ－４

イ）ウトムヌカラ（結婚する）準備

８月 21 日北海道アイヌ協会平取支部青年部と協力し共同調査としてウトムヌカラの儀式を試行しました。試行するにあたって、調査室での今までの成果を活かし、北海道アイヌ協会平取支部青年部と協賛し試行を行う事が出来ました。儀礼に必要な供物などは、平成 22 年に行われた平取町アイヌ文化保存会主催のウトムヌカラの記録を参考にしました。また、所作に関しては、昭和 1971 年（昭和 46 年）４月 10 日、監修・民俗文化映像研究所、撮影・姫田忠義さん、協賛・北海道文化財保護協会、登別温泉ケーブル株式会社、後援・北海道教育委員会で行われた「アイヌの結婚式」のビデオを参考に進行の流れや、所作をまとめました。しっかり記録されている知見をもとに、主催者である青年部と調査室が検討を重ね準備をしてこの儀式を執り行う事が出来ました。

表 1

内 容	画 像					
◆ 儀礼準備１ 調査室で栽培したピヤパ（ヒエ）トノト	 米麹	 ピヤパに多めの水を入れ炊く	 炊きあがった状態	 樽に入れる	 麹を入れる	 ４日後漬して完成
◆ 儀礼準備２ 調査室で栽培したシアマム（米）とシプッケプ（イナキビ）トノト	 米麹	 シアマムとシプッケプを多めの水で炊く	 炊きあがったら常温で冷まし麹を混ぜる	 材料をよく混ぜ合わせる	 樽に移し替え適量の水を入れる	 ２日後漬して完成
◆ 儀礼の流れと所作について、主催者及び関係者との打合せ ＊その他に、３回の事前打合せを行いました。	 儀礼の流れの打合せ	 所作の打合せ１	 所作の打合せ２	 所作の打合せ３	花嫁が花婿へ差し出すご飯が入った釜	
◆ 新郎、新婦それぞれの贈り物とカムイノミの供物	 男性のイコロ（宝物）	 女性から男性への贈り物	 儀式用供物１	 儀式用供物２	 振る舞いの鮭汁	
◆ 調査室で作成した式次第 ＊４地域文化保全対策調査の関連資料を参照						

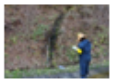
「祈りの場による保全」

資料Ａ－５

㉘ カムイワッカ

■ カムイワッカ（神の水）水量調査データ

今年度も、引き続き水量調査を行いました。カムイワッカにつきましては、10月27日に行われた平取ダム地域文化に関する現地視察の意見交換会で、地元委員から出された飲料水として利用可能にしてほしいという意見があり、対策の一つとして事務所では水質調査を行いました。

調査月日	天候 前日	天候 当日	調査時間	付替道路工事進捗状況	気温(℃)	水温(℃)	流量(分／秒)	特記事項
4／19	晴れ	晴れ	13：14		12	8	12秒77	水の流れが昨年と変わった
5／2	雨	雨	14：39		5	6	7秒20	前日の雨量が多く水量が多い
5／17	曇り	晴れ	10：08		15	7	16秒00	湧水の周りに、コロコニ・マカヨ・トゥレプ・スルクなどを確認
5／31	晴れ	晴れ	10：35		21	7	22秒72	湧水は濁りなし斜面は湿地の状況である
6／15	雨	曇り	09：42		16	8	26秒17	湧水周辺の環境整備の為草刈り
6／27	曇り	曇り	09：34		19	8	21秒18	水量が少し多く感じられた
7／12	曇り	晴れ	09：50		27	10	36秒79	湧水周辺の環境整備の為草刈り
8／4	晴れ	晴れ	11：13		27	11	32秒77	パイプに流れ込む場所の掃除後、水量調査を実施した。
8／26	雨	晴れ	10：22		23	11	12秒75	パイプに流れ込む場所の掃除後、水量調査を実施した。
10／3	雨	曇り	10：20		13	12	18秒99	パイプに流れ込む場所の掃除後、水量調査を実施した。

「意向調査」平取ダム地域文化に関する現地視察での意向確認

資料Ａ－６

② 平取ダム地域文化に関する現地視察（平成23年10月27日）

宿主別橋のフクロウモニュメントが見える場所からの解説の様子

記憶の印説明看板前での解説の様子

現地視察終了後、芽生生活改善センターでの意見交換会の様子

意見交換会の様子

○ 意見交換会での意見と対策

・カムイワッカの場所は、木などがうっそうとして遠って見えなくならないように整備をしていってほしい。カムイワッカの場所が折りの場の一部であるという事を確認できるような状況を保全しなければならないと思う。

・カムイワッカの水は、昔は栗のような扱いをしていて、行ったらすぐ飲めるような水だったが、牧野が牛を入れた為に汚染された水になっているので、きれいな水になるような対策をとってほしい。

今年度も、引き続きカムイワッカの水質調査を行いました。詳細は報告書9頁を参照して下さい。

今年度初めての調査

今年度最後のカムイワッカの様子

○ 対策の一環として砂流川ダム事務所ではカムイワッカの水質調査を行いました。

	項目	単位	分析結果	
1	調査地点名	－	カムイワッカ 1	ペロ 2
2	調査月日	月日	11月29日	11月29日
3	採水位置	m	流心	流心
4	天候	－	曇	曇
5	調査時刻	時分	11：05	12：30
6	水位	m	－	－
7	全水深	m	－	－
8	採水水深	m	表層	表層
9	気温	℃	8.1	9.3
10	水温	℃	10.8	10.3
11	外観	－	無色透明	無色透明
12	臭気	－	無臭	無臭
13	透視度	cm	＞30	＞30
14	一般細菌	個/mL	0	110
15	大腸菌	－	陰性	陰性
16	硝酸態窒素及び亜硝酸態窒素	mg/L	0.24	0.70
17	塩化物イオン	mg/L	3.4	2.0
18	有機物（ＴＯＣの量）	mg/L	1.3	0.9
19	ｐＨ値		7.0	6.3
20	鉛及びその化合物	mg/L	0.001未満	0.001未満
21	亜鉛及びその化合物	mg/L	0.005未満	0.005未満
22	シアン化物イオン及び塩化シアン	mg/L	0.0005未満	0.0005未満
23	四塩化炭素	mg/L	0.0002未満	0.0002未満
24	シス－１，２－ジクロロエチレン及びトランス－１，２－ジクロロエチレン	mg/L	0.004未満	0.004未満
25	ジクロロメタン	mg/L	0.002未満	0.002未満
26	テトラクロロエチレン	mg/L	0.001未満	0.001未満
27	トリクロロエチレン	mg/L	0.001未満	0.001未満
28	ベンゼン	mg/L	0.001未満	0.001未満
29	カドミウム及びその化合物	mg/L	0.0003未満	0.0003未満
30	水銀及びその化合物	mg/L	0.0005未満	0.0005未満
31	セレン及びその化合物	mg/L	0.001未満	0.001未満
32	ヒ素及びその化合物	mg/L	0.001未満	0.001未満
33	六価クロム化合物	mg/L	0.005未満	0.005未満
34	フッ素及びその化合物	mg/L	0.08未満	0.08未満
35	ホウ素及びその化合物	mg/L	0.1未満	0.1未満
36	１，４－ジオキサン	mg/L	0.005未満	0.005未満
37	グリフトスポリジウム	mg/L	0	0

○ 意見交換会での意見と対策

・冬期間に記憶の印のモニタリングをしてほしい。

本場は除雪の影響を受け破損する恐れがあるため「記憶の印」看板が取り外されています。

チェック！

水質につきましては、水道水として使用可能という結果が出ていますが、その時々の状況（キツネが近くで糞をした）などにより出てくる結果も違ってくるので、カムイワッカの水を飲んでもいいというものではありません。

③ モニュメント

※22年度設置されたフクロウのモニュメントに対しての意向を踏まえて

平成23年3月25日撮影したモニュメント

平成23年10月17日に付け替えられたフクロウのモニュメント

地域関係者の意向確認のまとめ

資料Ａ－７

Ｂ保全対策に向けた意向調査

ア）アイヌ協会平取支部三役および平取アイヌ文化保存会理事との懇談

	調査者名と役職	画　像	内　　容
1	木幡サチ子さん 平取アイヌ文化保存会理事		チノミシリへのカムイノミについて ・親族が加わってカムイノミをやれて良かった。今年もしやるなら（木村支部長と西島達夫さんを）軸にしてやりたい 儀式の行い方について ・息子（弘さん）に任せても良いけど、違う流域の作法で覚えてしまって、それが正しいやり方と思ってしまっている（まだ任せられない？） 今回の儀式は毎年行うか否かについて ＊　宿主別棲でのカムイノミは続けて行きたい。今年も秋頃（早めに時期を決めて）に調査室の助けを借りながらやりたい。 ＊　場所は去年やった所が良い。
2	鍋沢保さん アイヌ協会平取支部副支部長		精神文化の保全対策に関する調査について ・冬山に狩り（鳥捕り）に行った時、木の枝に山の実が残っていたら熟した木の実を雪野原に蒔きながら歩く習慣（和人とは違う植林の習慣）があった。 ・オヒョウ等を伐採する際は、根元付近で伐るのではなく、50～70 センチ（人間の腰位の高さ）で伐れば、若芽が出る。出た若芽の枝を（小石などを乗せ下ろすと根が出て一本の木になる。 ・アイヌ独自の資源の利用（森の維持の仕方、殖やし方について）法を自分自身で実験してみようと思っている。
3	西島達夫さん アイヌ協会平取支部副支部長		チノミシリへのカムイノミについて ・番兵小屋のカムイノミの時は、広い範囲の流域の人達のカムイノミだったが、エトンピアさんの親族の中でも想いのある一部の親族が集まって行う特殊なカムイノミだったと思う。 ・記憶の印説明看板付近は、カムイノミをする場所としては良いところだと思う。 儀式の行い方について ・伝統的な儀式のやり方を行うならしっかり勉強してから行うのが望ましいし、できれば作法は統一した方がいいと思う。 あまり堅苦しい事まで言わなくてもいいのかなと思う。大事なことは勉強してきちっと守っていくべきだが、色々な地域に行くとそれぞれの作法があり、郷に入れば郷に従えで地域の作法は教えられた通りに従えばいいと思う。 今回の儀式は毎年行うか否かについて ・個人的に都合がつけば参加したい。もしかすると近い身内からも参加したいという人が現れるかもしれない。他の親族に関しては、参加する事については無理強いしたりしない。
4	萱野志朗さん アイヌ協会平取支部副支部長		宿主別カムイノミについて ・かつて自分たちの先祖が行ってお祈りをしていた。それが久しく途絶えていたのが復活するっていうのは、アイヌ文化の伝承、又は儀礼の伝承という意味では重要な事だと思う。 調査室について ・調査室はずっと続くのか？調査室スタッフの身分の安定等という事は必要で、少なくとも 10 年単位で雇用してもらう等のシステムは必要だと思う。調査室は地元の人が調査を行い、ある意味人材育成の場にもなっているし大事だと思う。
5	木村英彦さん アイヌ協会平取支部支部長		事業所への要望として ・沙流川総合整備計画の中に調査室を入れるとはみ出した部分（沙流川流域？）の調査もカバーできるのではないか？ 調査室への要望として ・調査室はどこまで調査が出来ているかを知りたい。 ・支部役員はやることが多いため、具体的な内容（検討項目等）を指示してくれれば一番良いと思う。 その他として ・アイヌの歴史やアイヌの誇り等理解できていない部分が多いので、そういった勉強が出来る場が必要である。（例えばアイヌ大学を開校したい）
6	川奈野栄子さん アイヌ協会平取支部副支部長		モニュメントについて ・「フクロウのモニュメント」は良くなった（勉強会の際にモニュメントの画像を見た）ので雪が溶けたら個人的に見に行きたいと考えている。（現地調査は欠席だったため） ・アイヌ文化を伝承する人が高齢化しているので、こういった人方（調査室？）がやっているのは素晴らしい事だと思う。そうすることで成果も出るし、後継者としてやっていけると思う。

資料B

第13回
平取ダム地域文化保全対策検討会

＜平成23年度　調査成果概況＞

◆3-（2）生活文化現地調査-伝統的漁法についての調査

2012（H24）-07-27

アイヌ文化環境保全調査室

■報告イ

◆３-生活文化現地調査（２）伝統的漁法についての調査

【概要・要点の説明】

１）実証試験

１　特別採捕に関するまとめ⇒手元資料B-１、２

２　鹿角針による試行調査

・　平取アイヌ文化保存会との合同調査 ⇒手元資料B-３

・　沙流川ダム事業所との合同調査⇒手元資料B-４

２）試験地整備

・　特別採捕箇所の事前整備のまとめ⇒手元資料B-５

・　自然工法試験「生息環境の保全・改善するための整備」
⇒手元資料B-６、７

実証試験-１　特別採捕に関するまとめ

資料Ｂ－１

■ アイヌ文化環境調査 特別採捕実施状況概報①―さけ

◇日時　平成23年11月8日（火）午前8時30分～午後5時

◇場所　沙流川支川水系アベツ川合流点から道道平取門別線亜別橋までの区域

※採捕の調査位置図は、5項、特別採捕調査位置図に示しました。

1　採捕作業の流れ

●採捕場の整備（前日まで）
⇒今年度はラウォマブに流れが集まるように袋を作成しました

●沙流ふ化場からのさけの運搬
⇒生け簀からのさけ搬出
⇒運搬車両への積み込み
※地元業者（平付建設）との協同作業

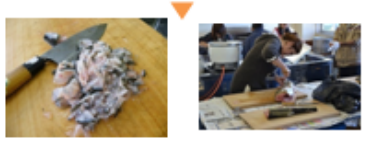
●採捕場へのさけ搬送、放流
⇒さけを一尾ずつリレーで川に
⇒採捕場の川辺で放流

●現地での採捕具作製と儀礼
⇒イサパキケニの作製
⇒鹿角製マレブの柄の作製

●文化伝承者による指導と試行
⇒アブ（魚とりかぎ）による採捕
⇒マレブ（自在もり）による採捕

●さけを迎える儀礼と食事
⇒チセ内でのむづくしのカムイノミ
⇒伝統を基調にしたさけ料理

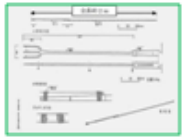
●採捕したさけの調理・加工
⇒多様な調理法の伝授、試行
⇒生活用具の素材としての加工
（処理は翌日以降に継続）

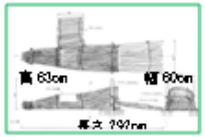


2　採捕作業の流れ

●伝統的な漁具を用いて、図・写真Ａ～Ｅの漁法を試行しました。その結果を【表１】にまとめました。

Ａ　マレブ（自在もり）鹿角製も使用
Ｂ　アブ（魚とりかぎ）
Ｃ　やす
Ｄ　ラウォマブ（うけ）





【表１】採捕の方法、その尾数

Ａ	マレブ（自在もり）	12尾
Ｂ	アブ（魚とりかぎ）	8尾
Ｃ	やす	14尾
Ｄ	ラウォマブ（うけ）	6尾
Ｅ	その他（追い込み等）	0尾
	合計	40尾

Ａ

Ｂ

Ｃ

Ｄ

3　採捕後の利用状況

●採捕後は、主に伝統的な方法で調理・加工しました。その状況を写真①～⑤、【表２】に示しました。

①

②

③

【表２】採捕後の用途、その尾数

イ	儀礼にともなう食用	3尾
ロ	保存用素材試作用 乾燥・燻製（筋子も）	27尾
ハ	生活用具試作素材用 皮製品　※	10尾
	合計	40尾

※伝統的な調理・加工法により、ほとんど余すところなく利用しています。

①さけをさばいている様子
②さけを迎える儀礼後の食事
③儀礼後に供した地域の食事
④サッチポ（干し筋子）用の筋子
⑤皮製品試作のための素材確保
⑥さけの皮製ケリ（くつ）完成品

④

⑤

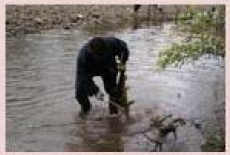
⑥

実証試験-１　特別採捕に関するまとめ

資料Ｂ－２

伝統的漁法で執り行われた儀礼のまとめ

●イサパキクニ作製・最初の鮭捕獲～チセでの準備までの概要

<table>
<tr><th>場　所</th><th>内　容</th><th colspan="3">画　像</th></tr>
<tr><td rowspan="4">◆亜別川</td><td rowspan="2">◆イサパキクニの準備作業
川原に自生しているスス（ヤナギ類）を採取しイサパキクニを作ります。
－　イサパキクニを作るための道具　－
①鋸
②タシロ
※イサパキクニ本来、漁を始める前に作ります。
特別採捕開始（特別採捕に関する詳細は、３－生活文化現地調査（２）伝統的業法調査の報告を参照してください。</td><td> </td><td> </td><td> </td></tr>
<tr><td>スス採取</td><td>イサパキクニのサイズを決める</td><td>イサパキクニ作製</td></tr>
<tr><td rowspan="2">◆貝澤貢男さん（祭司）により最初に捕獲された鮭は持ち帰り、チセでのカムイノミの際の供物とする。</td><td> </td><td>  </td><td> </td></tr>
<tr><td>採捕のようす</td><td>イサパキクニ</td><td>ポンイサッケキで鮭を包みチセに運びます</td></tr>
<tr><td rowspan="6">◆二風谷アイヌ文化博物館敷地内イオル再生事業１号チセ(ポンチセ）にて</td><td rowspan="2">◆チセでのチェプノミに使用する祭具
（ア）エトゥヌプ（片口）
（イ）オッチケ（膳）２膳
（ウ）トゥキ（杯）イクパスイ（箸）１セット
（エ）イナウソ（模様つきのゴザ）１枚
（オ）トマ-①、②（ゴザ）２枚
（カ）オニカプンチタラペ-①、②（半分模様付きゴザ）２枚
（キ）ポンイサッケキ（小さな簾）１枚
（ク）酒（濁り酒（一升））
（ケ）最初に捕れた鮭
（コ）供物
（ア）～（ウ）アイヌ協会より借用
（エ）～（オ）イオル再生事業より借用
（キ）、（ク）、（コ）調査室で準備</td><td> </td><td> </td><td> </td></tr>
<tr><td>トマを両側に敷きます</td><td>祭司側のトマの上にイナウソを敷きます</td><td>トマ・イナウソを敷いた状態</td></tr>
<tr><td rowspan="4">◆チェプノミ当日の配置図

</td><td colspan="3">会場の準備（チセでチェプノミに使用する祭具（ア）～（コ）と対応しています）
a－（オ）のトマ-①、②をイヌンペ（炉縁）の両側に敷きます。
b－（エ）のイナウソを祭司側のトマ-①の上に敷きます。
c－ロルンソに（カ）のオニカプンチタラペ-①、②を左図のように２枚敷きます。
d－（カ）のオニカプンチタラペ-①の上に（キ）のポンイサッケキを置きその上に鮭を炉に鮭の腹側を向けて置きます。
e－（ア）のエトゥヌプ、（イ）のオッチケ、（ウ）のトゥキ・イクパスイ、（コ）供物をもう一枚のオニカプンチタラペ-②の上に置きます。</td></tr>
<tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr>
<tr><td colspan="3">チェプノミ当日チェホロカケプイナウ（逆さ削りのイナウ）を作ります</td></tr>
</table>

実証試験-２　鹿角針による試行調査

資料Ｂ－３

ウ）鹿角針による試行調査

①合同調査（平取アイヌ文化保存会）

この分野の目的と課題の中に、漁具や漁法を再現するとともに試験の実施となっており、調査室で製作した鹿角針での試行調査をしました。この調査は、北海道教育委員会委託（北海道アイヌ協会平取支部実施）アイヌ文化を誰もが学べる講座の一つとしてアイヌ民俗技術伝承講座の「川魚の採捕・加工・保存法」において、試行調査を実施、記録・整理したものです。

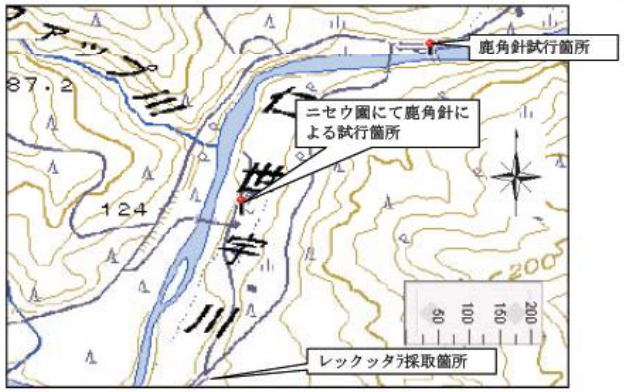
◇　試行日時：平成 23 年 7 月 10 日(水)　午前 9 時～午後 3 時
◇　試行場所：ニセウ沢堰堤およびニセウ園にて試行

◆合同試行調査の流れ

調査内容の説明 ◇講座の参加者へ、鹿角針による試行調査の流れの説明を行いました。		
◇ペライニ（釣り竿）に使用する材料採取 ※施行箇所手前にて、釣竿に使用するレックッタラ（ヨブスマソウ）の茎を採取しました。		
◇現地での道具説明 ※漁具の特徴、使い方等を説明しました。		
◇釣り試行開始 ※調査室スタッフによる「釣り方ポイント」等のアドバイスをおこないました。		
◇魚の加工・処理 ※釣れた魚を串にさし、加工処理作業（焼き干し）を行いました。		
◇ニセウ園での試行 ※「しの字型」釣り針による試行を行った結果、3 匹釣ることができました。これが、鹿角製釣針で釣れると言う事の実証となりました。		

◆魚の加工処理（捕獲した魚を現地と二風谷生活館にて焼き干しとして加工しました）

エラと内臓を除去し、ススキ（ヤナギ類）の串にさし焼きました。	焼き加減を見ながらじっくりと焼き上げました。
二風谷生活館にて加工処理作業を行いました。	最終的に、魚焼き機を使用して魚を焼き上げました。



アイヌ民俗技術伝承講座「川魚の採捕・加工・保存法」試行箇所位置図

実証試験-２　鹿角針による試行調査

資料Ｂ－４

ウ）鹿角針による試行調査

②合同調査（沙流川ダム建設事業所）

沙流川ダム建設事業所の方々と合同による伝統的漁法による試行調査を行いました。使用した漁具は、鹿角製釣針「しの字型・逆Ｔ字型」の２種類です。

◇ 試行日時：平成 23 年 8 月 3 日(水)　午前９時～午後３時

◇ 試行場所：宿主別川第１号橋、第２号橋中間の砂防下流

◆合同試行調査の流れ

現地試行の流れ ◇道具の準備(前日まで) ※鹿角を削って釣り針の作成		
◇ペライニ（釣竿）の採取 ※釣竿にするレックッタラ(ヨブスマソウ)の茎、ススヤナギ類)を現地で採取しました。		
◇道具説明 ※道具の特徴、使い方等の説明 ススヤナギ、レックッタラに、鹿角で作製した釣針（逆Ｔ字型、しの字型）を取りつけて試行しました。		
◇釣り試行 ※伝統的漁法チームの担当者による漁具の説明および釣り方のポイント等の指導を行いました。		
◇食文化試行 ※釣れた魚は、昼食のおかずとして試食しました。 事前に捕獲し、冷凍保存していたイワナなども焼き魚として試食しました。		
◇後片付け		

◆食文化試行（釣り上げた魚を現地で調理して事業所の方達と昼食）

えらと内臓を除去し串を刺し約準備を行いました

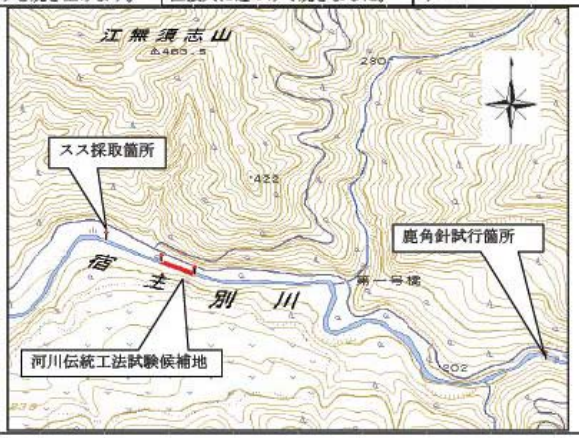
炭を熾します。

火の回りに串に刺した魚を並べます。

焼き加減を見ながら魚の向きを変えじっくりと焼き上げます。

大きさによって焼けにくい魚は、直接火に近づけて焼きました。

試食を待ち構えているところです・・・



額平川の支流宿主別川第１号橋と第２号橋中間の砂防下流にて伝統的漁法試行箇所位置図

試験地整備　特別採捕試行箇所の事前整備

資料Ｂ－５

イ）伝統的漁法実施のための水辺環境整備

沙流川の支流、更別流での特別採捕実施も２回目となる今年度は、昨年度の実績を踏まえた作業の取り組みとして、事前準備として水辺環境の整備を行いました。

◆伝統的漁法実施のための水辺環境整備の流れ

7月26日

試行予定箇所のアペツ川にて事業所との特別採捕実施に向けた現地確認をおこないました。

11月3日

特別採捕実施箇所に調査の看板を設置しました。

調査のための看板設置

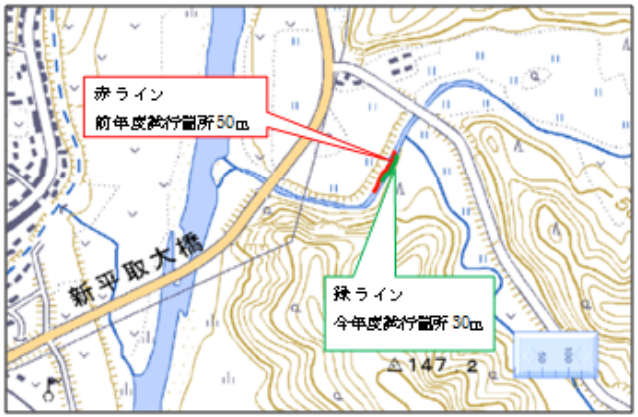
今年度は、昨年度の経験からラウォマプの網目を粗くし、端もラウォマプに流れが集まるように掛け上げました、上から見ると＞＜のようになります、結果捕獲が出来ました。

11月3日：事前作業として、杭うちを行いラウォマプを設置しました（上流側）。
11月7日：ラウォマプを設置、ススキ（ヤナギ類）による横木を掛け上流側の堰完成。

11月7日：昨年度は採捕時河床の泥などで採捕時に水が濁ったため、今年度は**「川岸および川底の泥や枯れ葉などの除去作業」**を行いました。川の濁り後、事前に打ち付けていた杭（下流側）にススで横木を掛け土嚢を３段積み堰が完成しました。

◆試行箇所位置図および漁具名と作製数

試行箇所	沙流川支流　アペツ川



期間	平成23年11月8日試行
試験箇所調整	昨年の実施結果をもとに、今年度の土嚢の段数は3段の水抜き箇所を2段にし、水位を下げた。採捕面積が広すぎたため、採捕に時間がかかったので今年度は面積を狭くした。

漁具	種　類	作　製　し　た　数
	・アプ（魚とりかご）	2
	・ウトゥ（どう）	2
	・雑魚すくい	1
	・シノッポンク（遊びの小弓）	1
	・たも網	2
	・はえ縄	2
	・マレプ（自在もり）	2
	・やす	2
	・ヤヤ（すくい網）	1
	・ラウォマプ（うけ）	2

連絡調整	事業所及び婦協などとの調整の上、細かい時間など設定した。

試験地整備　生息環境の保全・改善するための整備

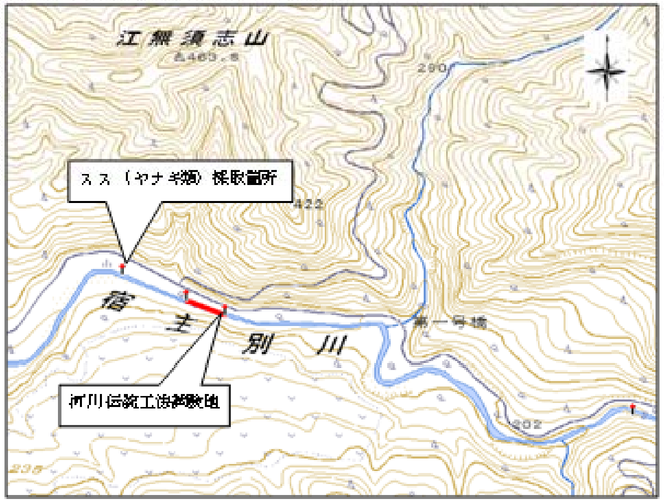
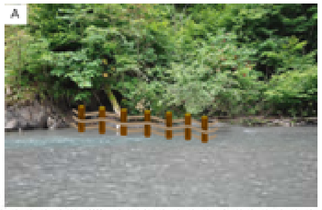
資料Ｂ－６

ウ）生息環境を保全・改善するための整備（水辺環境整備）

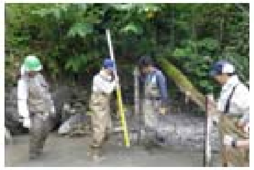
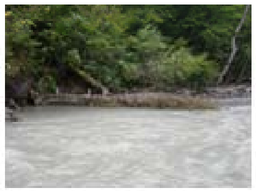
②木製杭打ち工法（自然工法）による試行調査

2011年8月3日実施した、**「河川伝統工法試験地での現地調査」の検討を踏まえ、**同年9月16日（金）木製杭打ち（やな柵）工法による調査を試行しました。作業の流れは下記内容となっています。

◆木製杭打ち工法の試行箇所位置図と自然工法イメージ図

試行箇所	◆宿主別川第1号橋と第2号橋中間の砂防下流  	
試行期間	2011年9月16日～2012年雪解けまで	
試行目的	ダム貯水池内において、柵設置における魚類生息域を広げる試行	
木製杭打ち工法のイメージ図		
	設置前のようす	柵粗工法イメージ図
試行箇所の選定	生息環境を保全・改善するための整備（水辺環境整備）実施に向け、自然工法についての現地調査を沙流川ダム建設事業所と合同でおこなった結果、自然工法試行箇所が決定しました。	

◆杭打ち工法実施に向けた材料採取から設置までの流れ

	
9月1日，自然工法試行予定箇所での河床の地質調査を行いました。	9月14日事務所との合同による杭用（杭および横木用）ヤナギ切り出し作業を行いました
杭，横木用ヤナギの運搬（※試行箇所まで運びました），前日の雨により，増水のため作業は終了	9月16日，川の水位が下がったので作業再開
杭打ち作業の様子（長さ1m50cmの杭を1m間隔で5本打ちこみました。）	横木用ヤナギ運搬の様子（水位が下がったとはいえ，水量の多い中での作業を行ったので大変でした）。
	
ヤナギ組上げの様子（打ち付けた杭に横木用のヤナギを交互に組み上げて行きました）。	9月16日完成写真 全長5mの柵が完成しました。

結果からわかる事

資料Ｂ－７

③木製杭打ち工法（自然工法）による試行調査結果

⑦築設置後の経過写真
水量が減り築により流れが変わり溜まりが形成されていない状況です。

撮影日 2011年 10月 6日

⑩撮影日 2011年
雪解け水により多少水量が増え微かに水に触れている状況です。

撮影日 2011年 12月 1日

⑧築設置後の経過写真
水量が減り河床が下がり流れが変わり築として機能していません。

撮影日 2011年 10月 11日

⑨築設置後の経過写真
築の前後に小石などが溜まり機能していません。

撮影日 2011年 11月 18日

・今年度、水生生物生息区域を広げるための調査として、岩主別川を候補地に設定、２種類の築（杭打ち工法、木流し工法）の試行について事業所に提案しました。「河川伝統工法試験地での現地調査」の際、自然工法試行イメージ図を作成し試行予定箇所である岩主別川にて現地調査を行いました。
・調査室としては、「杭打ち工法２基、木流し工法１基」の２種類の工法について提案しましたが、検討の結果、今年度は「杭打ち工法１基で試行」すると決まり、１基のみの設置となりました。
・上記の写真は、設置当日から 12月１日までの画像ですが、調査室としての目的であった「生息環境を保全・改善するための整備」を想定して設置しました。
★試行結果は、経過のモニタリング写真を見てもわかる通り、少しずつですが築の前後に小石などが堆積し始めているのが確認できます。
★経過観察からは、本来の想定していた「生息環境を保全・改善するための整備」という目標から大きく外れている事になります。ですが、今年度の経過観察の結果、こういった工法で試行すると、違う意味での結果につながるということがわかり、調査室としても勉強になりました。
★結果からわかる事として、「杭打ち工法１基」でも流れを変え、川岸を守り、多少の増水でも流れが落ち着く事など、当初の計画の様に、多くの築を設置する事によって流れを変えることが推測され、当初の目的とは違いますが「川岸を守りつつ水生生物の生息域を広げることも同時に出来るのではないか」と言う事が伺えます。また、例え人工的構造物であっても、木製であり、自然にやさしく、例え破損しても補修及び再設置が簡単で有ることなど、調査室でも維持管理出来るものと思います。
★「設置箇所」については、今年度は水が多い時期にに設置しましたが、次年度は水の少ない時期に設置し、増水時にも機能する様に改良しながら多数の築を設置したいと考えています。
★引き続き、次年度以降も岩主別川での試行を予定しています。

図：2003-2005 総括報告書第Ⅱ部付録３自然工法について　７）ヤナ組み工法No.2　ＰⅡ-5 より